群馬大学工業会
東海連合支部

第 38 回オンライン交流会（2025.12）

・開催日:2025 年 12 月 21 日（日） 18:00～20:30 （オンライン開催）
・テーマ:「未開の地 グンマーより Part Ⅱ」
・プレゼンター ： 富澤敏明氏（52K・前橋支部）
・参加者 ： 22 名 詳細は 2 ページ

冒頭の約 30 分は、恒例となっている参加者の近況報告の時間とした。今回は特に二つの話題が印象に残った。

一つは、愛知在住の荒居さんによる報告で、入社 60 周年を機に、会社時代の思い出をと同期約 40 人の寄稿により、150 ページに及ぶ一冊が完成した。これまでも文集作りを続けてきたが、「これが最後になるかもしれない」という思いが語られ、長年の仲間との絆の深さが伝わってきた。

もう一つは、啓真寮生の渡邉さんの参加である。大学院での研究生活の近況報告に加え、来年から愛知県へ移住する予定であることが紹介された。啓真寮 OB 会での出会いをきっかけに本会へ参加したもので、世代を超えた交流の広がりを象徴する出来事となった。

富澤氏

今回のプレゼンテーションは、「未開の地 グンマーより」と題し、前橋在住の富澤さんが担当した。6 月に同テーマで行った講演が好評だったことから、今回は 2 回目の実施となった。

内容は群馬県の地理や歴史に始まり、暮らしの魅力、企業、食文化にまで及んだ。移住希望地ランキングで上位に位置する理由として、新幹線による首都圏へのアクセスの良さ、物価の安さ、医療・子育て支援の充実、自然災害の少なさなどが紹介された。

また、ベイシア、ワークマン、カインズ、ヤマダ電機、ビックカメラといった群馬発祥の企業や、食品分野での特色あるブランドについても説明があった。

プレゼン後の意見交換で、焼きまんじゅうの価格や文化を巡っては、地域差（200～350 円）について活発な意見が交わされ、

桐生のソースカツ丼やひもかわうどんなど、学生時代の思い出話にも花が咲いた。

群馬発祥の企業

昭和 56 年まで夜間に開催されていた赤城競歩大会についても話題となり、参加経験のある世代と知らない世代の対比から、時代の移り変わりを感じさせる場面もあった。

群馬県民会館の廃止決定、赤城ケーブルカー山頂駅の再開計画、2027 年放送予定の大河ドラマなど、地域の将来に関わる話題が取り上げられた。徳川家康の埋蔵金伝説や糸井重里氏の議論にまで話が及び、終始和やかな雰囲気の中で会話が弾んだ。

桐生の想いでの食べ物

今回も、参加者それぞれの経験や記憶が持ち寄られ、世代を超えた交流の意義を改めて実感する会となった。

文責 二宗光文 （４６M）

参加者

清水堪藏	49C	愛知		小西憲二	49C 修	さいたま
吉平弘一	50C	愛知		松原郁也	56C 修	さいたま
鶴岡徹雄	44M	愛知		雨宮敏文	54K 修	川越
荒居正和	39S	愛知		金井勇	46C 修	川越
二宗光文	46M	愛知		星野義算	56C	高崎
佐野武司	62W	三重		富澤敏明	52K	前橋
阿部桂三	46S 修	三重		小林康泰	52S	桐生
森口敏生	50E	四国		反町正美	47C 修	日立
中村洋祐	54C 修	四国		堤　章	53S 修	宇都宮
倉林弘行	44C	平塚		福島大吉	50C 修	茨城南
				中村啓夫	48M 修	茨城県
				渡邉健寿	修士	学生